平成 29 年度
経済学部地域経済研究センター
学生チャレンジ地域連携
プロジェクト研究助成
最終報告書

佐賀大学経済学部
亀山ゼミナール

2018 年 1 月 18 日

経 済 学 部 地 域 経 済 研 究 セ ン タ ー
学 生 チ ャ レ ン ジ 地 域 連 携 プ ロ ジ ェ ク ト 研 究 助 成　最 終 報 告 書

2018　年　1　月　18　日
佐賀大学経済学部経済学科

研究代表者
氏　名　　佐光孝平

Ⅰ　研究課題名

佐賀駅北口の活性化のためのイベント参加の周遊調査

Ⅱ　調査・研究従事者

学　籍　番　号	氏　　名	分　　担
[redacted]	井上和紀	データ分析・報告書の執筆
[redacted]	佐光孝平	活動全般・報告書の執筆の総括
[redacted]	立山愛梨	広報活動
[redacted]	花田晃樹	データ収集・報告書の執筆
[redacted]	丸山耀輝	連絡調整
[redacted]	山内誠也	広報活動

調査・研究従事者数　6　名

Ⅲ　研究報告

１　調査・研究目的

佐賀市は 1995（平成 7）年調査の 24.7 万人という人口ピーク時から徐々に人口が減少し、2016（平成 28）年調査での人口は 23.4 万人まで減少している。加えて、合計特殊出生率が 1.63、人口の 26.1％が 65 歳以上であることから、佐賀市は人口減少と少子高齢化が進む地方都市であると言える。佐賀県は 2015（平成 27）年時点で、他県からの流入人口が夜間人口に占める割合を全国と比較すると、4.92％となっており、全国 4 位の値となっている。流出人口の夜間人口に占める割合を全国と比較すると、4.68％となっており、全国 10 位の値となっている。この数値から、佐賀県は人口流動の激しい県だということがわかる。その中でも佐賀市は流入人口、流出人口の値が最も大きい（総務省、2015）。

少子高齢化や人口流動が進む現代、共働きや集合住宅化といった生活の変化も相まって、住民同士の繋がりが希薄となり、地域コミュニティの参加率も年々減少している。多くの地方自治体がその対策に走っているが、佐賀市もその内の 1 つである。自治会加入率から見た地域交流の活性化を目指したイベントが佐賀市内各地で行われている。

地域交流は子どもの育成や、公的機関のセーフティネットを補完する役割など様々な効果が期待される。大阪府豊中市の豊中市社会福祉協議会によって発足された校区福祉委員会というボランティア組織がある。この組織は見守り・声かけ活動や子育てサロンといった活動を行うことで、行政の手の届かない引きこもりや、孤独死といった問題に取り組んでいる。

2009（平成 21）年の国土交通白書によると、地方圏の在住者が現在住んでいる地域に対して愛着を感じる理由として、「友など人間関係がある」や「近所の人との人間関係がある」などの地域交流に関する回答が三大都市圏の在住者よりも多い。このことから、地方圏に愛着をもたらす要因として、地域交流が重要な位置を占めていると予想できる（国土交通省、2009）。

人と人との繋がりや思いやりといった地域交流（地域住民同士のコミュニケーション）を活性化させることが子どもの育成、セーフティネットの構築、地元への愛着心の強化などに繋がる。我々は佐賀市には地域交流の深化が必要だと考えた。そこで、佐賀市内の自治会が主催する、佐賀駅北口の交流を目的とした「第 3 回 駅北く～よか FES」、佐賀インターナショナルバルーンフェスタと同時開催される嘉瀬町の住民の交流によって生まれた「嘉瀬かかしまつり」という性質が違う 2 つのイベントにおいてアンケート調査を実施する。最終的に住民の地域交流の度合いと愛着との関係、また参加者は地域交流イベントに何を求めているか、2 つのイベントの違いを調査したい。

２　先行研究・事例

我々は実際に佐賀市内で地域交流イベントの運営を行っている佐賀駅北口の自治会と嘉瀬町の自治会の会長に話を伺った。佐賀駅北口のふれあい町づくり実行委員会委員長の久米義治氏は、“少子高齢化に加えて親世代が共働きとなったことで自治会に加入することが少なくなり、その子供の世代も自治会に入らなくなるという加入率減少の構造が出来ている”と語った。この対策として、ふれあい町づくり実行委員会は、3 年前から街づくりイベントを実施している。そのためのイベントである「第 3 回 駅北く～よか FES」を催すことで、地域交流を図るとともに、佐賀発の人やモノを紹介することで、地元への愛着心の強化を目指している。

嘉瀬町の嘉瀬まちづくり協議会ふれあい文化部部会長の藤井英貴氏は“数値的な変化はまだ表れていないが少子高齢化の影響は感じている”と語った。対策としては「子供をイベントの中心

にする」ことをコンセプトに、イベントの運営や参加などで積極的に子供を関わらせていて、地元への愛着心の育成を目指している。

当然のことながら、こうした地元への愛着心の育成は、佐賀以外の地域でも行われている。我々が夏合宿で訪問した大分市の「府内戦紙」の例を紹介する。このイベントは 1985（昭和 60）年、大分商工会議所青年部が青森の「ねぷた」を参考に立ち上げた祭りで、初めは「大分七夕祭り」にみこし一基で参加するところから始まった。最初は少数の企業が参加する小規模なイベントだったが、規模が大きくなるにつれ参加団体が増え、現在では地域住民も参加できる大規模なイベントとなった。現在では参加団体は 20 を越え、観客も 25 万人に達している。このイベントは地域の重要な交流の場となっており、「子供戦紙」という子供がメインとなる企画を実施することで、子供時代から地域やイベント自体に対する愛着を育成している。

鈴木・藤井（2008）によると、地域愛着が高い人ほど、町内活動やまちづくり活動などの地域への活動に熱心であり、地域愛着の度合いが高いほど、地域内の活動について他者に依存する傾向が低いという。また、引地・青木（2005）によると、地域愛着の形成には、地域住民の交流の促進、道徳的な教育、行政の評価の向上などによる「集団に対する肯定的な印象」の向上が最も重要であるという。我々は、「集団に対する肯定的な印象」の向上の手段として、地域交流イベントに着目した。

以上のことから、佐賀市の現状を鑑みて地域交流イベントを毎年行うことによる地域への愛着心の創出に着目した。また、前述した自治会のイベント、ふれあい町づくり委員会主催の「第 3 回駅北く～よか FES」、嘉瀬まちづくり協議会主催の「嘉瀬かかしまつり」に参加させていただく機会を得た。

３　調査方法

イベントは下記の要領で行われた、今回は第 3 回駅北く～よか FES、バルーンフェスタ内の嘉瀬かかしまつりのイベント会場にいる不特定の参加者に、聞き取り調査形式でアンケートを集計し、70 名分の回答を得ることができた。以下、得られた回答に基づき分析を行う。

◎イベント開催日程

〇第 3 回 駅北く～よか FES

・日時：2017 年 10 月 29 日（日）

・会場：佐賀駅北口周辺

・内容：地域コミュニティに関するアンケート調査

※イベントの詳細は、巻末のチラシを参照されたい。

〇嘉瀬かかしまつり

・日時：2017 年 11 月 1 日（水）から 11 月 5 日（日）

・会場：嘉瀬川河川敷

・内容：地域コミュニティに関するアンケート調査

３－１　アンケート概要

今回実施したアンケートは、地域内での交流に関する意識調査、及び階層分析法（AHP : Analytic Hierarchy Process）を用いた地域の催しごとに関する感性調査である。「第 3 回駅北く~よか FES」「嘉瀬かかし祭り」の 2 つのイベントへの参加者を調査対象とした理由は、冒頭でも述べたように交流に端を発する地域への愛着はどのようにして培われていくのかを調査するために、交流が行われる場であろう 2 つのイベントに実際に参加している層にアンケートを行うことが妥当であると考えたためである。

本研究ではまちの催しとして夏祭りと日常的地域清掃の 2 つを取り上げ、個人での参加しやすさ、コミュニケーション、地域貢献という観点から実際のイベント参加者が何を重視しているのかを探ることができる。これら感覚的な観点(評価基準)を数値化し。客観的でより分かりやすい分析結果を示していくために AHP を使用する。

アンケート票の作成にあたっては、「参加者はどれほどの交流をしているのか、したいのか」、「参加者は交流の場となりうる催しにはどのような要素を求めているのか」といったことを調べることによって地域住民の交流に対する現状の調査とイベントでの交流の深化、ひいては住民の地域に対する愛着の強化は有効であるか否かを明らかにしていきたいと考えている。

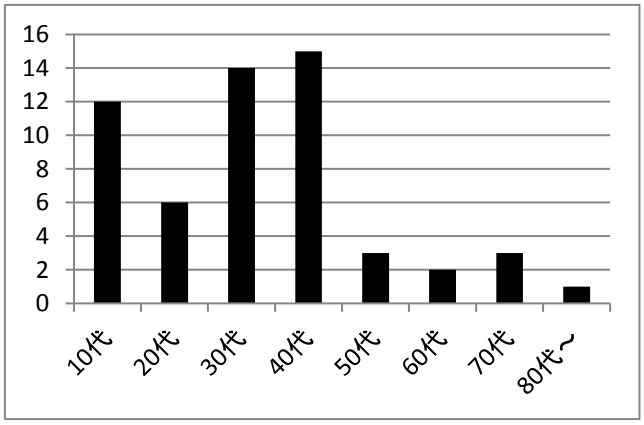
・「第 3 回 駅北く~よか FES」と「嘉瀬かかしまつり」における調査

① アンケート回答者の基本情報について

第 3 回 駅北く～よか FES の来場者に対し、なるべく年齢層がばらけることを意識しながら、聞き取り調査形式でアンケート調査を行い、男性 19 名、女性 37 名の計 56 名分の有効回答を得ることができた。アンケート回答者の年齢内訳は以下の図 1 の通りである。今回のイベントの実施にあたって、チラシやポスターだけでなくテレビ CM やワイドショーの紹介コーナーなどを用いた広告を行ったため、幅広い年齢層が参加していたと推察される。特に家族連れでの来場者が多く会場全体の雰囲気としても 10 代、30 代、40 代の割合が多い印象であった。

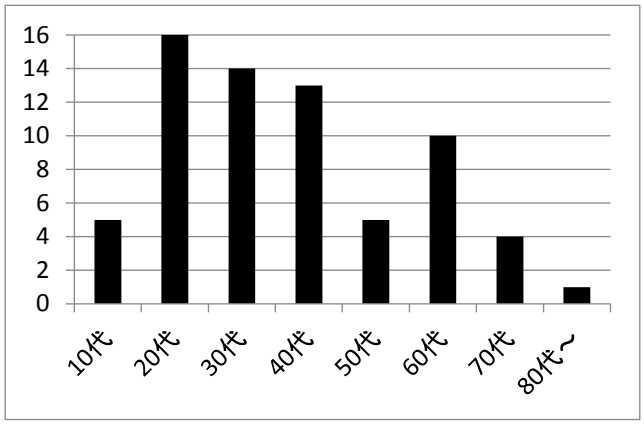
加瀬かかしまつりも第 3 回 駅北く～よか FES と同様の形式でアンケートを行い、男性 25 名、女性 43 名の軽 68 名分の回答を得ることができた。アンケート回答者の年内訳は以下の図 2 のとおりである。20 代や 30 代、40 代の家連れの割合が高いが、60 代も比較的割合が高い。

図 1　く～よか FES の回答者の年齢分布（N=56）



出所：アンケートデータに基づき作成

図 2　かかしまつりの回答者の年齢分布（N=68）



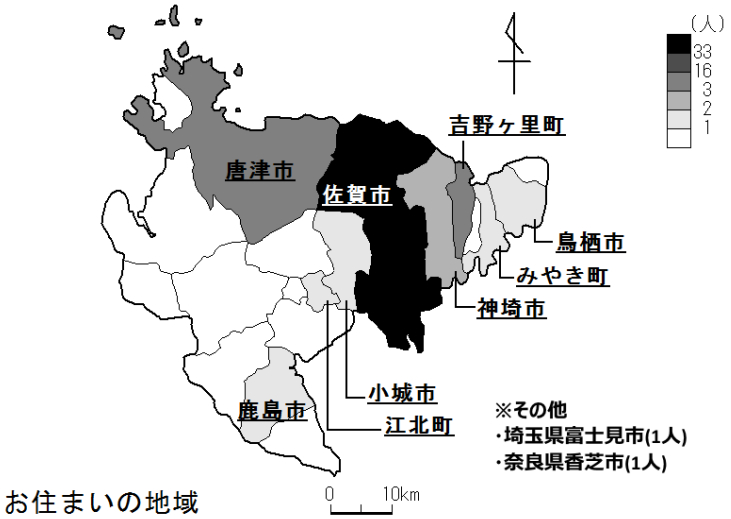
出所：アンケートデータに基づき作成

② アンケート対象者の居住地

図 3 は、第 3 回 駅北く~よか FES で実施したアンケート回答者の居住地を地理情報システム（GIS：Geographic Information System）で表したものである。有効回答者の 46 名中 33 名が佐賀市在住であり、11 名が佐賀市以外の県内の JR 沿線の地域（鹿島市、小城市、鳥栖市、唐津市、神埼市、吉野ヶ里町、江北町、みやき町の合計）在住者、2 名が県外（奈良県、埼玉県の合計）在住者であった。

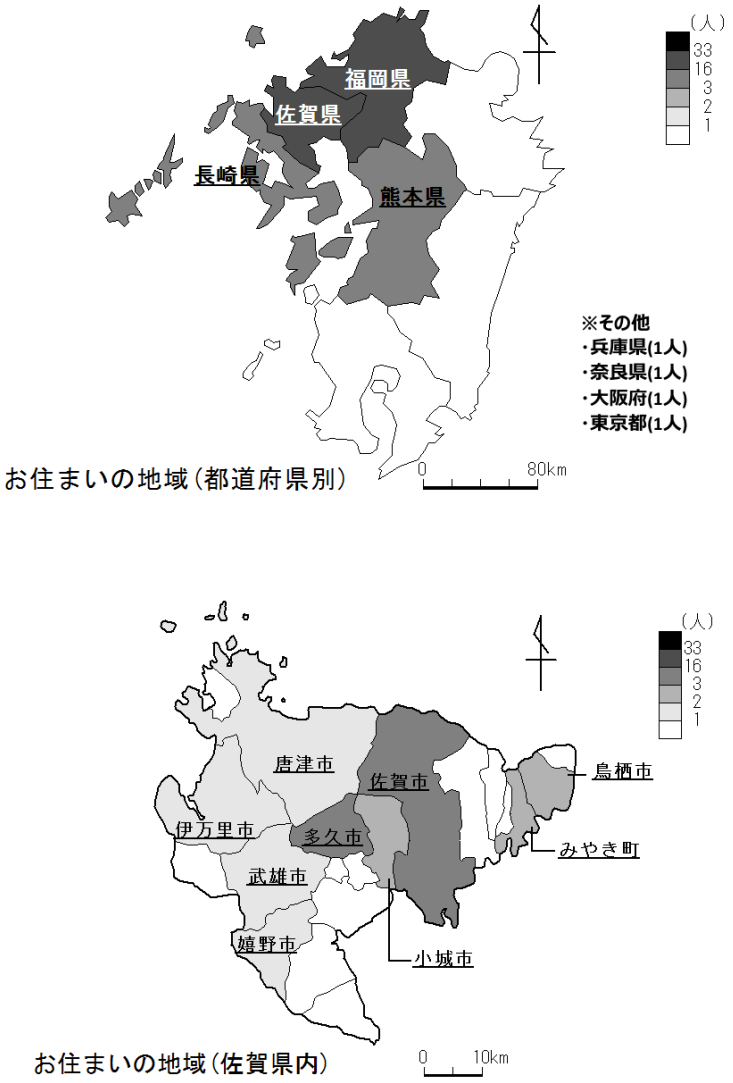
図 4 は嘉瀬かかしまつりで実施したアンケート回答者の居住地を GIS であらわしたものである。有効回答者 65 名の内 27 名が佐賀県在住であり、次いで福岡県在住が 26 名、熊本県在住が 4 名、長崎県在住が 3 名と続く。九州外からも 4 名が県外（兵庫県、奈良県、大阪府、東京都の合計）在住であった。佐賀県内のみで見た場合は佐賀市在住が 14 名、残りの 13 名は佐賀県各域から幅広くやってきている。

図 3　く～よか FES の回答者の居住地（N=46）



出所：アンケートデータに基づき作成

図 4　かかしまつりの回答者の居住地（N=65）



出所：アンケートデータに基づき作成

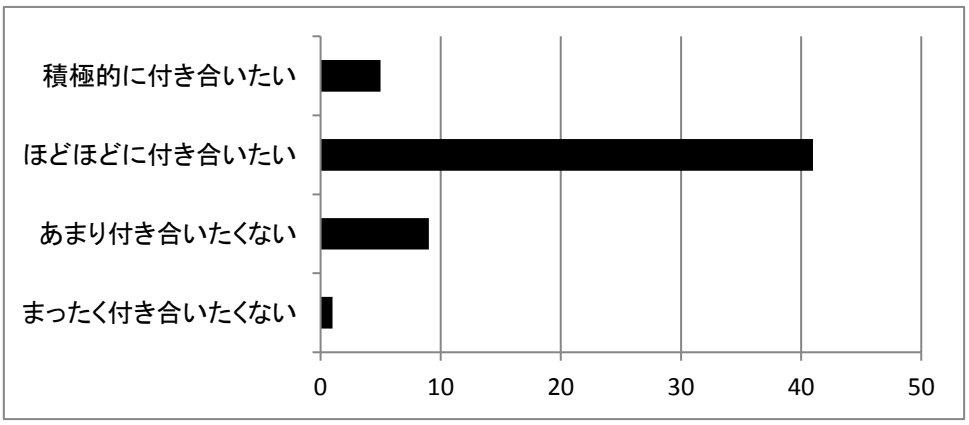
③　『近所付き合い』と『イベントでの交流』について

図 5 は、「第 3 回 駅北く～よか FES」での「隣近所の方とどの程度おつきあいをしたいか」の集計結果である。グラフを見ると「ほどほどに付き合いたい」という人が圧倒的に多いことが分かる。また、駅北く~よか FES という交流を目的としたイベントの参加者であっても「積極的に付き合いたい」という人は非常に少ない。

続けて図 6 の嘉瀬かかしまつりの同様の集計結果を見ると「く～よか FES」の数値と類似しており、この 2 つのイベントに参加する人は同じ傾向を持った人が集まっていたことがわかる。

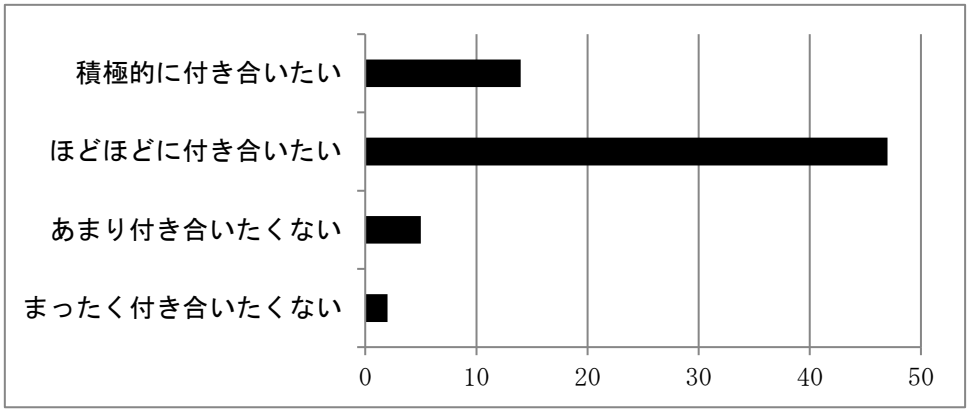
また、「イベントやコミュニティ(クラブ・サークル・習い事など)で人とつながることは好きか」の集計結果は両イベント共に「好き」という人が 8 割程度であり圧倒的に多いものの、一方で「嫌い」という人も 2 割程度と、決して少なくはないことが分かった。

図　5く～よかFESの隣近所の方とどの程度おつきあいをしたいか（N＝56）



出所：アンケートデータに基づき作成

図6　かかしまつりの隣近所の方とどの程度おつきあいをしたいか（N=68）

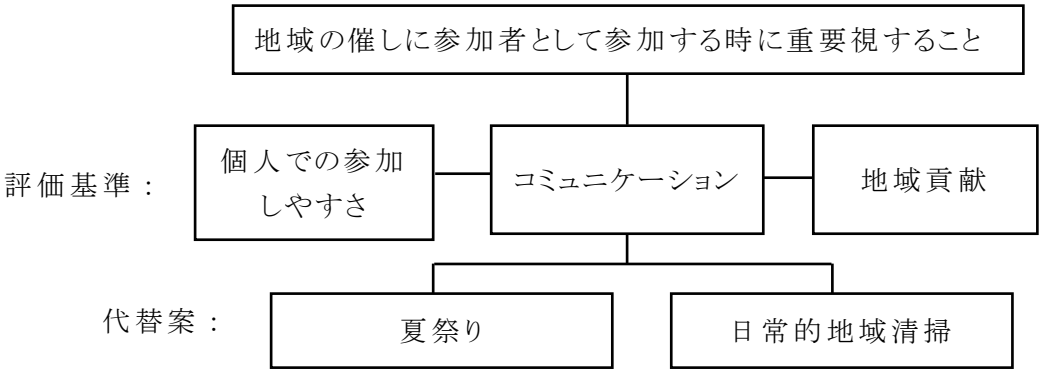


出所：アンケートデータに基づき作成

４　AHPによる分析

図7で示したAHPの階層図にあるように、「まちの催しに客として参加する場合、何を重視するか」という課題を設定し、以下で示す評価基準と代替案のもと回答してもらった。

図 7　AHPの階層図



出所：筆者作成

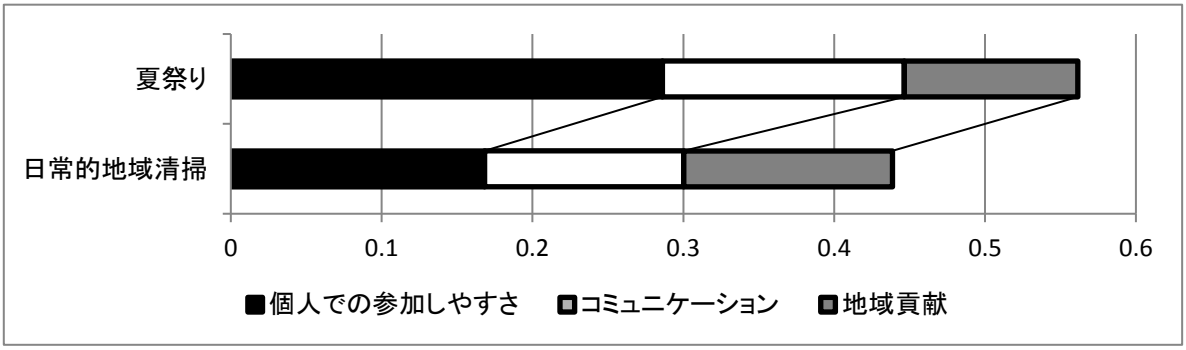
代替案として「夏祭り」と「日常的地域清掃」を設定する。これらの代替案を設定した理由は、地域の愛着に繋がりやすい「まちのイベント」において一過性のイベントと継続性のイベントとでどちらがより選好されるかを調べるためである。代替案を選択する際の評価基準として「個人での参加しやすさ」「コミュニケーション」「地域貢献」に関しては「個人での参加しやすさ」では1人での参加を、「コミュニケーション」では複数人での参加及び主催者側との小規模な交流を、「地域貢献」では地域という広い範囲での交流を、それぞれどれだけ重視しているかを調べ、参加者がイベントに求める交流の規模を調べるために設定した。

４－１　第3回 駅北く～よかFES

図8は第3回 駅北く～よかFESでのAHP集計結果である。これを見ると日常的地域清掃よりも夏祭りを好む人が多く、評価基準においては「個人での参加しやすさ」と「コミュニケーション」の項目においては夏祭りを、「地域貢献」の項目においては日常的地域清掃を選択する傾向にある。また、「夏祭り」と「日常的地域清掃」の両方で「個人での参加しやすさ」が最も重視されている。具体的な数値について述べると「夏祭り」に関しては「個人での参加しやすさ」が0.286、「コミュニケーション」が 0.160、「地域貢献」が 0.115 という結果になった。「日常的地域清掃」に関しては「個人での参加しやすさ」が 0.168、「コミュニケーション」が 0.132、「地域貢献」が 0.138 という結果になった。

「夏祭り」、「日常的地域清掃」のどちらの項目においても「個人での参加しやすさ」が最も高い。このことから「個人での参加しやすさ」はイベントの形式に関わらず非常に重視されやすいポイントであることが分かる。また、「日常的地域清掃」において「地域貢献」の割合が少し増えているものの「個人での参加しやすさ」の割合が大きく減ったことで合計値が「夏祭り」を下回っている。このことからも「個人での参加しやすさ」というポイントがイベント選びにいかに影響しているのかがうかがえる。

図8　く～よかFESの町の催しに関しての感性評価（N=48）



出所：アンケートデータに基づき作成

図9a、図9b、図9cはAHP回答者48名を年齢別に分類して比較したものである。第3回 駅北く～よかFESで採れた参加者の年齢分布データから中央値を取ると30代になるため、ここでは「10代～20代」、「30代～40代」、「50代～」の3つのパターンに分類した。

図9aから10代～20代は「夏祭り」に関しては「個人での参加しやすさ」が0.253、「コミュニケーション」が0.168、「地域貢献」が0.170という結果になった。「日常的地域清掃」に関しては「個人での参加しやすさ」が0.125、「コミュニケーション」が0.127、「地域貢献」が0.155という結果になった。

図 9b から 30 代～40 代は「夏祭り」に関しては「個人での参加しやすさ」が 0.326、「コミュニケーション」が 0.159、「地域貢献」が 0.097 という結果になった。「日常的地域清掃」に関しては「個人での参加しやすさ」が 0.191、「コミュニケーション」が 0.108、「地域貢献」が 0.119 という結果になった。

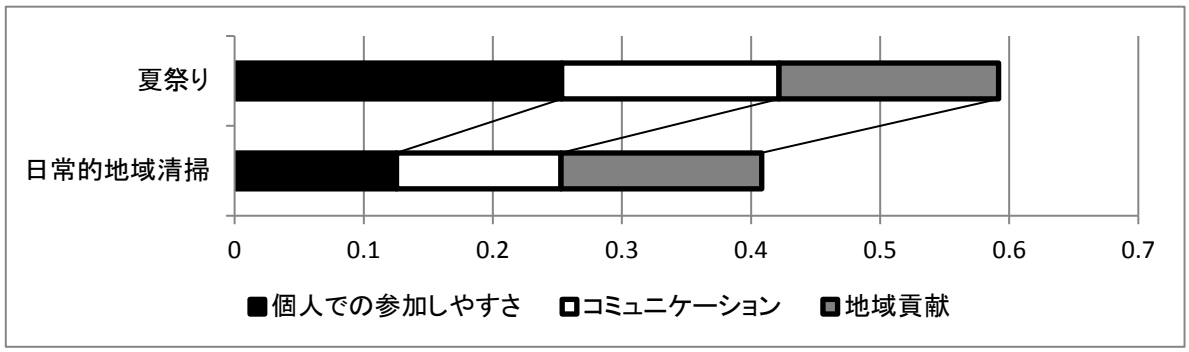
図 9c から 50 代以上は「夏祭り」に関しては「個人での参加しやすさ」が 0.215、「コミュニケーション」が 0.157、「地域貢献」が 0.093 という結果になった。「日常的地域清掃」に関しては「個人での参加しやすさ」が 0.156、「コミュニケーション」が 0.208、「地域貢献」が 0.171 という結果になった。

10 代～20 代の人は「夏祭り」を選好することは全体と同じであるが各評価案の比率が少し異なっている。「夏祭り」に関しては「コミュニケーション」と「地域貢献」の占める割合が大きくなり、「日常的地域清掃」に至っては「コミュニケーション」と「地域貢献」の両方が「個人での参加しやすさ」を上回る結果となっているのである。このことから、若い世代にとっては「夏祭り」でも「日常的地域清掃」でも他者との交流に対して比較的強い意識を持っており、更に「日常的地域清掃」となると地域に対する関心も強いといえるのではないだろうか。

一方で 30 代～40 代の人は全体平均をより強くしたようなグラフとなっている。これは、おそらくこの年代に家族層の親世代が多く存在していることから、仕事や子供の世話で私生活が手一杯であり日常的なイベントはおろか、一過性のイベントにおいても他者とのコミュニケーションを考えているような余裕はないということなのではないだろうか。

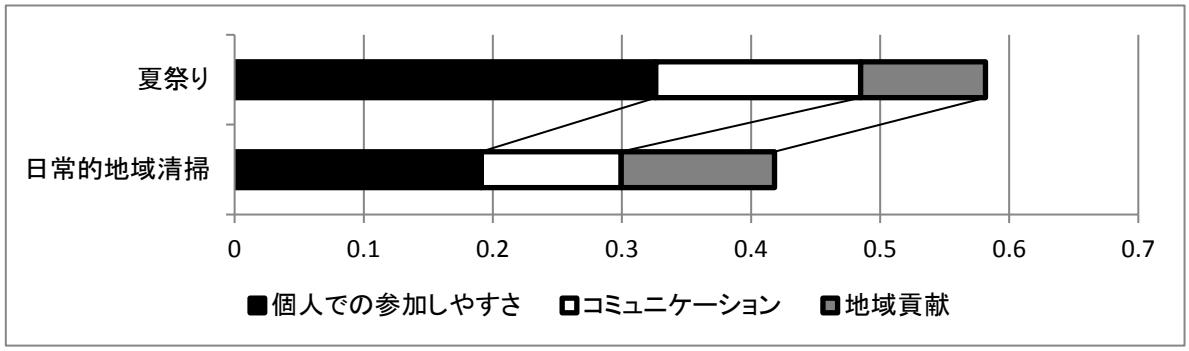
そして、50 代以上の人は「日常的地域清掃」を選考するという点から全体平均から大きく離れており、「日常的地域清掃」に「コミュニケーション」を最も強く求めているという点も他とは異なっている。これは、子供が独り立ち、もしくは十分に成長したことで私生活に時間的な余裕が生まれ、近所の人などの他者との日常的なコミュニケーションを強く求めるようになったのではないかと考えられる。

図 9a　く～よか FES の 10 代～20 代によるまちの催しについての感性評価（N=13）



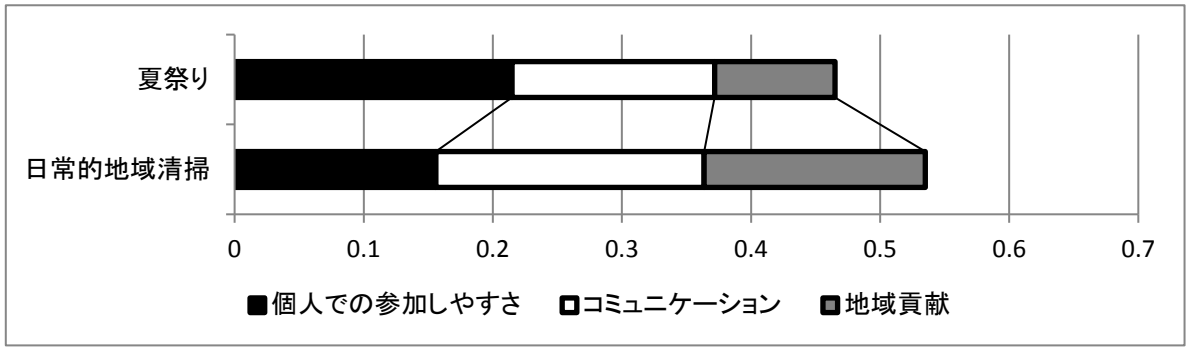
出所：アンケートデータに基づき作成

図 9b　く～よか FES の 30 代～40 代によるまちの催しについての感性評価（N=48）



出所：アンケートデータに基づき作成

図 9c　く～よか FES の 50 代以上によるまちの催しについての感性評価（N=9）

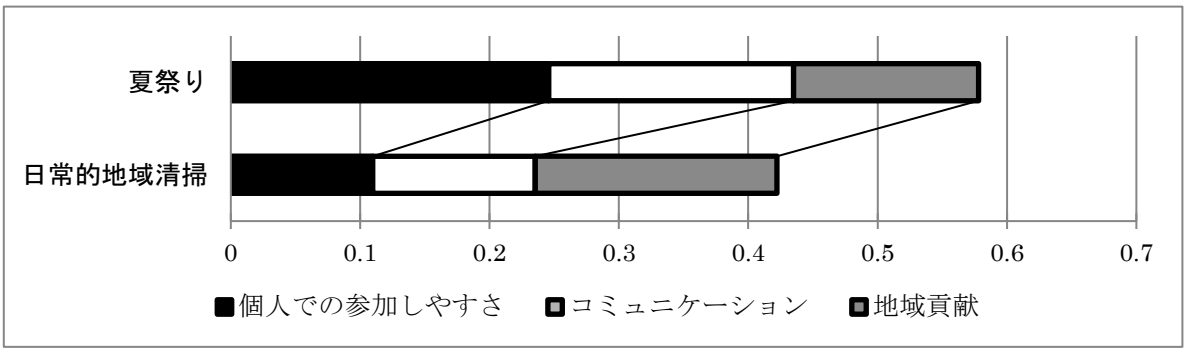


出所：アンケートデータに基づき作成

４－２　嘉瀬かかしまつり

図 10 より、く～よか FES と同様に夏祭りが日常的地域清掃より好まれていることがわかる。具体的な数値について述べると「夏祭り」に関しては「個人での参加しやすさ」が 0.246、「コミュニケーション」が 0.189、「地域貢献」が 0.143 という結果になった。「日常的地域清掃」に関しては「個人での参加しやすさ」が 0.246、「コミュニケーション」が 0.126、「地域貢献」が 0.187 という結果になった。

図 10　かかしまつりの町の催しについての感性評価（N=56）



出所：アンケートデータに基づき作成

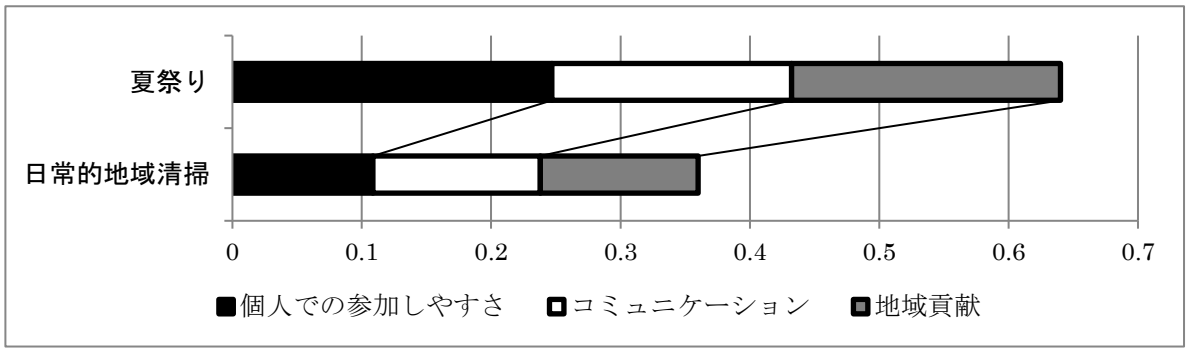
図 11a、図 11b は AHP 回答者 48 名を年齢別に分類して比較したものである。加瀬かかし祭りで採れたデータを見たとき、10 代～40 代は数値的に類似していたため 1 グループにまとめている。

① 各データの数値

図 11a から 10 代～40 代は「夏祭り」に関しては「個人での参加しやすさ」が 0.247、「コミュニケーション」が 0.185、「地域貢献」が 0.208 という結果になった。「日常的地域清掃」に関しては「個人での参加しやすさ」が 0.108、「コミュニケーション」が 0.130、「地域貢献」が 0.121 という結果になった。

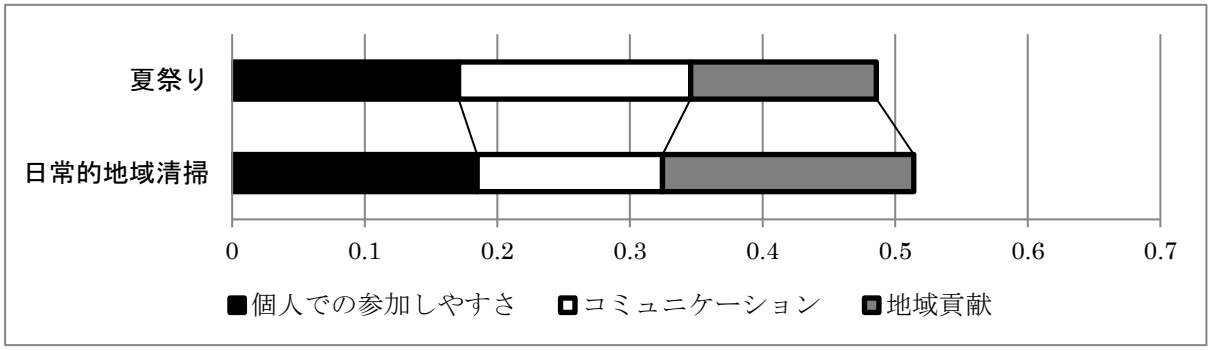
図 11b から 50 代以降は「夏祭り」に関しては「個人での参加しやすさ」が 0.171、「コミュニケーション」が 0.175、「地域貢献」が 0.140 という結果になった。「日常的地域清掃」に関しては「個人での参加しやすさ」が 0.185、「コミュニケーション」が 0.139、「地域貢献」が 0.190 という結果になった。

図 11a　かかしまつりの 10 代～40 代によるまちの催しについての感性評価（N=32）



出所：アンケートデータに基づき作成

図 11b　かかしまつりの 50 代以上によるまちの催しについての感性評価（N=22）



出所：アンケートデータに基づき作成

５．考察

今回我々が調査をした 2 つのイベントは交流の深化、ひいては地域への愛着の育成のきっかけとして有意義であると感じた。一方で、イベントの参加者は交流そのものには好意的な意見が多いことがわかったものの、イベント自体には「個人での参加しやすさ」を重視しておりイベントに対して交流を重点的に求めてはいないことも分かった。そのため、今後行っていくイベントでは「個人での参加しやすさ」を重視しやすい内容にすることを第一とし、交流や地域貢献は副次的な効果として狙っていくのが良いと思われる。

まずは地域で行われるイベントで交流に少しでも触れてもらい、近隣住民や地域コミュニティの人々との交流に目を向けてもらえれば小さい交流が生まれ、ゆくゆくは愛着を生み出すような

大きな交流へと繋がると私たちは考える。

参考文献

・鈴木春菜・藤井聡著（2008）「地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究」『土木計画学研究・論文集』25（2）、pp. 357-362.
（http://trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp/tba/wp-content/uploads/2013/09/area_cooperative.pdf）

・引地博之・青木俊明（2005）「地域に対する愛着形成の心理過程の検討『景観・デザイン研究講演集』1、pp. 232-235.
（https://www.jsce.or.jp/library/open/proc/maglist2/00897/2005/pdf/B41D.pdf）

・総務省（2015）『平成 27 年 国勢調査 従業地･通学地による人口・就業状態等集計結果 佐賀県の概要』
（http://www.pref.saga.lg.jp/toukei/kiji00357104/3_57104_61793_up_zisgs535.pdf）

・豊中市社会福祉協議会「セーフティネットの課題 地域力と開発力」
（http://www.kantei.go.jp/jp/singi/housetusyakai/dai3/siryou2.pdf）

・国土交通省（2009）『平成 21 年度 国土交通白書』第二章 第三節
（http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h21/hakusho/h22/pdf/kp123000.pdf）

佐賀 駅北をもっと明るく、元気な街に。

第3回 駅北く～よか FES

ミニ SL がやってくる!

GO!

集まろう!
学ぼう!
楽しもう!

おほさんも登場!
一緒におほダンスを
踊ろう!

シンガーソングライター
江頭 勇哉 LIVE!

大道芸人
フーミンによる
パフォーマンス!

スタンプラリー開催!
5,000 円相当の
食事券などが当たる!

1868 SAGA 2018
肥前さが 幕末維新博覧会
佐賀さいこう博
150th ANNIVERSARY
2018 3.17 — 2019 1.14

平成 29 年

日時 10/29 日
10:00 ～ 16:00

会場 佐賀駅北周辺

主　　催：ふれあい町づくり実行委員会
後　　援：佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀市、佐賀市教育委員会、肥前さが幕末維新博推進協議会
協　　力：九州電力㈱、ＪＲ佐賀駅、力武医院、九州国際ビジネス専門学校、ゲストハウス HAGAKURE、㈱サガテレビ、江頭勇哉、Performance Factory Happy、佐賀大学亀山研究室、佐賀商業高等学校、佐賀学園高等学校、神野町郵便局、自衛隊佐賀地方協力本部、佐賀北警察署、佐賀広域消防局、佐賀県赤十字血液センター、Succa Senca、PIZZERIA DA GINO、水餃子専門店ちゃおず、poco a bocco、ViSS、北山森クラブ、アクリルたわしプロジェクト、藤井さん（ミニ SL）、大道芸人フーミン、レインボーハウス、オレンジ、みのり、ステップワーカーズ、かささぎの里、でんでんむし、DE・TE・KO・I 白山、ワークピア天山、ワークス山王、SAKURA、ピア・サポートかだん

問い合わせ先：☎ 090-3328-1131（ふれあい町づくり実行委員会　委員長　久米）

駅北く～よかFES 会場位置図

1868 2018
肥前さが 幕末維新博覧会
佐賀さいこう博
150th ANNIVERSARY
2018 3.17 — 2019 1.14

タイムスケジュール（予定）

- ●10:00～ オープニング
  みんなDEおほダンス/PFHパフォーマンスショー/大道芸人フーミン
- ●13:00～ 江頭 勇哉 弾き語り LIVE
- ●15:00～ グランドフィナーレ
  佐賀学園吹奏楽部演奏/PFHパフォーマンスショー/大道芸人フーミン/みんなDEおほダンス

Music

A フードエリア

- ●佐賀県産限定 BBQ ！
- ●農産物の販売
- ●イタリア政府公認ナポリピッツァ
- ●ぷりぷりの水餃子
- ●自衛隊・警察・消防の車がやってくる！

B サイエンスエリア

- ●親子科学実験教室 先着各60名
  ①11時～②14時～
- ●ＩＨ簡単クッキング教室 先着18組
  （事前申込 TEL0120-986-303）
- ●佐賀商業、佐賀学園の開発商品 PR

C 体験エリア

- ●芋ほり体験
  （午前・午後で先着各200組）
- ●高所作業車搭乗体験
- ●ミランバくんと遊ぼう など

D 国際交流エリア

- ●本場ベトナムのフォー
- ●佐賀の日本酒 bar

E カフェエリア

- ●福祉事業所による
  ポップコーン＆自慢のカレー
- ●昔なつかしのアイス

F 本部・ハートフルエリア

- ●スタンプラリー抽選会
- ●福祉事業所による想いのこもった
  お菓子や有機栽培野菜に雑貨 など

スタンプラリー後の抽選会では、駅北店舗の
5,000円相当の食事券などが当たる

G プレイエリア

- ●石炭で走る本格派ミニＳＬ
- ●アロマ石鹸づくり
- ●デコはがきを送ろう
- ●モザイクタイル・フォトフレーム作り
- ●缶バッチワークショップ　など

※注意事項

・少雨決行ですが、雨天時は一部の出展が中止となる場合があります。・広報を目的に主催者や出展団体が写真や映像を撮影させていただきます。
・各会場（Ｃエリアを除く）には駐車場はありません。公共交通機関を利用するか、近くの有料駐車場をご利用ください。